

大阪府済生会中津病院の

あゆみと現況

大阪府済生会中津病院 院長 川 嶋 成乃亮

済生会は明治44年に明治天皇が「生活苦で医療を受けることができずに困っている人たちを施薬救療によって救おう」との「済生勅語」を発せられ、お手元金を下賜されたことにより設立されました。その後も歴代皇室が総裁を務められ、医療・福祉を行う団体として発展してきました。現在は平成25年4月より第6代総裁に秋篠宮殿下を推戴しています。

大正3年に第一号病院として神奈川県病院が設立され、翌年に芝病院（現在の中央病院）が設立されました。そして、大正5年に済生会3番目の病院として、当院の前身である大阪府病院が設立されました。現在済生会には、全国に80病院と、20の診療所、そして約270の老健、特養などの施設があり、55,000人が働いています。

済生会は日赤、厚生連と共に「公的」病院として位置づけられています。そして、社会福祉法人であることにより、『無料

低額診療事業』を行うことが義務づけられています。この生活困窮者に対する無料低額診療というのは、済生会にとつて最も重要な事業と位置づけられ、全患者の10%以上に10%以上の診療費免除をしなくてはなりません。なお、済生会の掲げる三大目標は、①生活困窮者を濟（すく）う ②医療で地域の生（いのち）を守る ③医療と福祉、会を挙げて切れ目のないサービスを提供、となっています。

現在の済生会には、秋篠宮殿下・総裁のもとに有馬朗人会長、炭谷茂理理事長がおられ、理事長の下に事務職からなる本部組織があり、済生会の運営にあたっています。済生会は本部の下に都道府県単位で支部があるという組織体制となっており、現在40都道府県に支部があり、病院や老健、特養などの施設は各々の支部に属し、支部の責任者として支部長がいます。当院の属する大阪府支部は全国最大の支部であり、8病院とその下に40近い各種福祉施設等があります。

中津病院は大正5年10月10日、大阪市北区中崎町に初代院長石神享先生の下、70床の済生会大阪府病院として設立されました。そして一昨年、平成28年に100周年を迎えることができ

ました。中津病院の発展には設立初期における篤志家二人の寄付が大きく関わっています。まず開院後、病棟がすぐに手狭になつてきたところ、大正11年に鳥井商店（現サントリー）の鳥井信治郎氏から病棟1棟と運営資金の寄付がありました。その後昭和に入り、建物の老朽化と規模の狭隘さが問題となつてきたにも関わらず、資金難で増改築計画が進みませんでした。昭和8年に大阪のメリヤス商として財を成された嘉門長藏氏より、当時のお金で100万円の寄付がありました。これにより、病院の移転改築が可能となり、中津病院は芝田町の旧府立北野中学の跡地である現在地へと移転し、220床の都市型病院として、今日の中津病院へとつながる新しい一歩を踏み出しました。

昭和13年に病院名を恩賜財団済生会大阪府中津病院と改め、昭和26年に社会福祉法人恩賜財団大阪府済生会中津病院と改称しました。日本の高度成長に合わせ、中津病院の病床数は次第に増え、1963年、昭和38年には468床となりました。そして福祉施設の開設にも注力し、昭和24年には病院付属乳児院を、昭和26年には大阪整肢学院を開設しました。昭和44年には、現在の中津病院、中津医療福祉センターの形を創り上げた豊島正忠先生が第5代院長に就任し、中津病院は次々と増築整備を行っていきます。まず昭和55年に新館中棟を、昭和61年に東棟を建設し、これに合わせ病床数は468床から606床へ、

そして778床となりました。昭和61年からは病院と附設各施設を一体管理するために、センター制をとることとし、中津医療福祉センターが誕生しました。そして平成2年に各福祉施設や中津看護専門学校が入る西棟が建設されました。平成8年には地域医療福祉連携センター、訪問看護ステーション等を開設、また平成14年には北棟を建設しました。平成17年にPETセンターや、リハビリセンター等が入る南棟が建設されました。これにて約25年かけて行つてきた病棟の増築整備は一段落しました。平成22年からは、現院長の川嶋が第9代院長に就任しています。

中津病院は平成25年から26年にかけて減床を伴う病床の大幅な再編成を行い、現在は総ベッド数712床、うち601床が7・1看護体制をとる一般病床、78床が地域包括ケア病床、33床が回復期リハビリ病床となっています。病院職員総数は約1,500人、医師は約200名となっています。病院附設施設としてPETセンター、健診センター、デイケアを有しています。

長い間、中津病院は、中津医療福祉センターの中核として、病院完結型の医療をしてきました。しかしながらこの10年、地域完結型医療への転換を進め、地域の診療所の先生方との連携を推進した結果、平成26年に地域医療支援病院認定が取得できました。現在、紹介率は70%、逆紹介率は100%を超えるよ

うになっています。地域医療連携センター内には、病診連携室と入院支援室とがあり、両者の密な連携により、紹介頂いた患者さんに対し、より細やかな一貫したサービスを行えるようになっていきます。そして入院支援室を介して、入院前から退院まで切れ目のない患者さんのサポートが可能です。さらに同じ部屋の中に一体化した形で、医療ソーシャルワーカーが勤務する生活福祉相談室があり、無料低額診療事業の対象となる患者さんはもとより、幅広い患者さんの様々な相談に乗っています。

当院の診療の2本の柱はがん診療と急性疾患診療です。入院患者に占めるがん患者の割合は約25%で、消化器がん、肺がん、造血器悪性腫瘍を中心に幅広いがんの診療にあたっています。大阪府で最も早くPETを導入しましたが、PETセンターは、その高い診断力により紹介先の施設から大きな信頼を得ており、今春には最新の機種に入れ替える予定です。また放射線治療では、IMRTなどの高度放射線治療を推し進めています。

がんに対する手術症例数も多く、胃がん、大腸がんの手術件数は近畿でトップクラスですが、特に3D内視鏡システムを用いた低侵襲の内視鏡手術に力を入れています。また消化器内視鏡検査症例数は年間18,000件を超え、ESD、EMRの内視鏡的手術も症例数が豊富です。最近特に手術件数の増加が

著しいのは肺がん手術であり、これも原則として内視鏡手術で行っています。更に平成29年11月からは手術ロボット、ダ・ヴィンチを導入しました。現在は前立腺がんが主体ですが、今後、ロボットを用いたより低侵襲な手術が、他の領域にも広がっていくと考えています。

急性疾患診療の中心は脳・心血管疾患であり、24時間常に、複数の循環器内科医師が対応できる体制をとっています。その結果、年間3,000人近くの心血管疾患の患者を受け入れており、急性心筋梗塞患者受け入れ数やカテーテル治療数は近畿で有数の施設となっています。また近年は心臓リハビリにも力をいれています。心臓血管外科は3名の専門医からなり、高い技量で循環器内科と連携しながら、幅広い手術に対応しています。また、脳血管障害は今後最も患者数の増加が想定される疾患ですが、2017年11月から脳血管障害に対する救急診療体制を強化し、平日は脳神経系専門医師が24時間対応する体制としています。このような急性疾患診療を支えるのは救急応需体制です。当院は二次救急病院ですが、現在救急車の搬送受入数は年間6,000台を超えており、断らない救急をモットーに応需率は日中がほぼ100%、夜間、休日が80%程度となっています。

一方、これら以外にも多様な診療科がそれぞれ特色ある診療を行っています。整形外科では、関節外科(股関節、膝関節)、

手外科、脊椎外科、外傷外科、スポーツ外科のそれぞれの分野の専門医の元で、数多くの症例の治療にあたっています。中でも人工関節手術の症例数は近畿でトップクラスです。また膠原病内科や老年内科など、他の施設ではあまり見かけない専門診療科があるのも当院の特徴です。さらに4名の歯科医師が勤務する歯科・口腔外科では、通常の診療に加え、周術期の口腔ケアを推進しており、肺炎などの術後合併症の防止に努めています。

そして、急性期病院の忙しさの中でも、患者サービスや医療の質の低下が起こらないよう、様々な取り組みを行っています。Smile Hospital Projectチームでは、玄関前駐車場でお身体の不自由な患者さん達の車からの乗り降りのサポートをするなど、患者さん・利用者さんが、より快適に当院を利用できるお手伝いをしています。また医療の質を担保するため、外部からの評価として、北区では最初にISO9001の認証を受けました。さらに検査部は、おそらく大学病院以外では日本初のISO15189の認証を受けました。これは、検査の精度や検査の管理体制の確かさを問うものです。

このように急性期総合病院への舵取りを早いスピードで進めている中津病院ですが、本体である中・東棟の建物が築後30数年経っており、近い将来に建て替えをしなくてはなりません。その場合は更なるダウンサイジングを行い、現在の地では急性

期機能に特化した形の病院にする予定で、現在有する回復期機能の病床をどのようにするかを検討中です。済生会中津病院は、一昨年創立100周年を迎えましたが、今後も、医療・社会環境の変化に合わせて、病院機能を進化させるとともに、当院のすべての基盤にある『患者さん・利用者さんに優しい病院』の精神を忘れず、次の100年を歩んでいこうと思います。